

☆はじめに

スタッフ間での協議の結果、今回をもってとりあえず「交渉停戦」ということにいたします。再開は来年春の予定です。その折には、GGでその旨広告が出ると思います。出なければ、こちらから郵便にてお知らせ致します。

皆様の暖かいご支援に、深く御礼申し上げます。私信等は引き続き私気付で。

第三回の報道

○1943年7月20日「ワシントンポスト」紙から：イエール社会主義革命の根拠地カタパンで、新たに自由主義者による武力蜂起が発生した模様。信頼できる情報筋によれば、これは社会主義革命が早くも恐怖政治へ移行しつつある事への抵抗らしく、イエールの政情不安は一層高まつた模様。ホワイトハウスはこれに関して、「合衆国はイエールの革命について、国際的道義に基づき、正当なイエール統治者たるイエール王国政府を全面的に支援する」とコメントした。

○同月末「タイム」誌より：イザベリア公国とイエール王国とが、中立国イスラムを通して和平交渉に入った模様。現在の戦況から見て、これはイザベリア側に有利に展開する模様。細かいことはまだわからないが、ホワイトホールのスポーツマンは、英國政府はこれについて一切関知しないと発表した。

○同8月15日「ニューヨークタイムス」紙から：米軍は動乱の激化したイエールに、更に増援の艦隊を派遣することを決めた。今回は敵国に対するプレッシャーの意も含めて、艦隊の編成が明らかとなつた。以下のとおり。

空母 エンタープライズ エセックス ヨークタウン レキントン バンガーヒル
軽空母 インディペンデンス プリンストン ベロー・ウッド カウペンス モンテレイ
護衛空母 ナッシュ アルタマハ バーンズ サンガモン スワニー シュナンゴ
サンディー

及び 戰艦5隻 重巡洋艦14隻 壓逐艦72隻

なお、この艦隊の航空戦力は、戦闘機469機、爆撃機156機及び雷撃機204機の計829機となる。今後合衆国は太平洋戦においては、この方面に全力を注ぐ模様。

○同月末「シカゴ・トリビューン」紙から：わが社がさる筋から入手した情報によると、現在その進行がうわさされているイエール王国・イザベリア公国間の交渉は、イエール王国側から提案された模様。これは相次ぐ内乱を平定するために、王国側が全兵力を内乱へ振り向ける必要を認めたためと思われる。交渉相手国のイザベリア公国は、自軍兵力の提供を軸に、米軍の完全撤退を含むかなり強引な要求を示しているものと思われる。わが国情報当局は、この和平交渉について「ありえないことだ」としているが、これはさきの空母の件もあり、あまり信憑性が高いとは思われない。

ピラだッ！

「私は恭塚まさ子大尉、17機撃墜の誇り高きイザベリア海軍航空備兵隊のパイロットであーるっ！早速だがやい『独雷安土』、同じ女性として貴方の挑戦確かにお受けした！垂直尾翼に八重桜を描いた空冷星型エンジンの単発機があればそれが私だ！いつでもかかるがよい！」

最後に、これを拾ったイエール兵は、間違いなくこれを『独雷安土』に届けるように！」

(編集部・岬当麻)

③：前回イエールからまかれたピラのリアクションですが………こともあります。いくらもたたないうちに、敵の基地で対空放火をくらって戦死してしまいました。……何も言えん。で、次がマジでイエールにまかれたピラです。

イエール兵士諸氏

イザベリア公国大公ギャブレット・ギャブレー3世より一書を呈す

王政イエールは壊滅せり。イエール兵士諸氏も我がイザベリア陸海軍の絶大なる攻撃を認識せしならむ。貴國為政者並びに軍部が戦争を継続する限り、我が攻撃はいよいよその破壊及び行動を増大強化し王政イエールの作戦を支持する軍需生産施設を完膚なきまでに

破壊しつくすであろう。無駄な抗戦は停止し、ただちに武器を捨てて我々に投降せよ。我々は決して諸氏を拒まない。諸氏は捕虜として相応のもてなしを受けるであろう。」
③：亡命の方法についてはルールブックまたはこれまでの結果発表の中にあります。

Q & A

Q 1：複座機で参加する場合、最初のキャラの持ち金は2人合計の600zgですか？
(大阪府 洞太助)

A 1：そのとおり。それ以上の席数でも同様。

Q 2：複座以上の機で生還すると、そのキャラ数分だけ生還報酬の100zgはもらえるんですか？

A 2：そうです。

※それから、「宛名カード」は売ってる物ではありません。自分で作るもんです。

Q 3：後から追加でキャラを送るときも、175円の切手は要りますか？

(神奈川県 吉楽征二)

A 3：175円切手は結果発送用なんで、追加のときには要りません。くれると言うなら、ありがとうございます。

Q 4：制式解除とはなんですか？

(愛知県 井村和正)

A 4：要するに「引退」と同じです。制式機のリストからは抹消するよ、ということで。自己申請すれば使えます。

Q 5：制式解除されたオプションは、もう使えないの？

(愛知県 吉橋道生)

A 5：原則的にはそうです。

Q 6：「空技廠」って何じやらホイ(←死語)？
(北海道 渡部里奈 他結構多数)

A 6：…う…戦前、日本海軍の航空技術研究部門だったとこです。マイナーなどこだから、知らないでも不思議は無いけどね。

参 加 者 の 声

④「様名とはるな」ですが、あれはやっぱりPBMにするべきでしょう。(大阪府 洞太助)

⑤：おおきに！実は「Blowers」でやるPBMって、これなんよ。他にも2、3あるけど。

⑥(イエールの)上層部は何やってんだ！あと陸軍も！
(和歌山県 林孝始)

⑦：まったくだ。(面白無い：正)だけど…次回からの「取りなおし」でなんとかなること期待しましょうよ。米軍も増援出したし、ね？

—Editorial—えてとりある—

▼今更何ではあるけれど、私の航空趣味は本来輸送機、それもダグラス・コマーシャル・シリーズに端を発している。一連のスッキリしたデザインには、これといった特徴はない。ただ直線的で、平均的だ▼例えばDC-6。ライバル機にはロッキード社のコンステレーションがある。洗練さ・スピードそして搭載量と、すべて口社の方が上である▼しかし、私にとってはコンステレーションよりもDC-6の方が魅力的だ。なんと言ってもそのデザインに無駄がない。コンステレーションは胴体中程が他よりもぶくりと膨らんでおり、極端な話肥満のイルカのようである。一度見たら見間違えようがないほどインパクトが強い▼しかし、この強烈な印象がいけない。すぐ飽きが来てしまうのである。見る度に、ああまただ、としまいにはうんざりしてくる▼話が飛ぶが、よく言われる通り一般に関東よりも関西の方が料理の味つけは薄い。これはあの「食い倒れ」の伝統(?)に由来する、とものの本にあった▼次から次へと店をハシゴし、食い、そして飲む。味が濃いとすぐに満腹感を覚えるようになり、口にものを含むことさえ嫌になってしまう。その点薄味であればそう簡単には飽きが来ない。結果、文字通りぶっ倒れるまで胃にものを押し込むこともできる。説得力のある話だ▼冒頭の2種の輸送機の例についてもこれはあてはまるかもしれない。目立つデザインより、シンプルな方が長くなじめる。「シンプル・イズ・ベスト」である▼もしかしたら、私が派手めな一線機よりも後方で地道にその任に尽くしていく輸送機やロートル機に魅せられるのもそれ故だろうか▼ただ、人間だけはあまり地味でもいけない。行き過ぎもまた困りものだが、適度に目立つ方がいい印象をもって長く付き合える▼…だからなるべくなら、参加するときに一歩くらいでもお手紙下さいよ。その方がこちらもなにかと勧みになるし。
(菊)

N O T I C E :

※今回の締切りは9月15日（必着）です。毎度のことですが、速達は絶対にだめです。
※本年度は陣中につき誠に恐れ入りますが、時節のご挨拶はご遠慮させていただきます。
あしからずご承知おきください。

※上記につき、10月末までに結果が出なければ、来春まで出ないものとしてください。

G G の P B M - キャラ生還おめでとう！ コーナー

○REV COUNTER：遠藤誠

◎：だ～か～ら～、MATSで参加してってばあ。今度のParcfermeに、「規則変更のお知らせ」を送ったから。で次、死亡者ね。

◎：菅原忠幸

◎：だ～か～ら～、MATSで参加してってばあ。何でだろ～なア。やっぱ「お役所」つてのがまずかったのかなあ。結構ハズしていいかと思ったんだけど。

○Fortune city：渡辺里奈

◎：こちらは「大」常速だもんねえ…。けど最近量減ってない？ウチが悪いのかな？

○読者コーナー地下帝国：林孝始 菊地研一郎

◎：両方共スタッフ。林さん、「センチネル」ってそんなおもしろい？聞いた話じゃどうも外道っぽくて…。MSが嫌いなのも一因なんだけど。菊地君（笑）には何も言いません。

※自分が読むところしか熱心に探さないので、漏れてる方がいらっしゃるかもしれません
が、その点についてはご容赦下さい。 (敬称略)

一周年記念、ハメ外し企画！

悪夢の余興クイズ・ぱーと II の答え

宇垣 プレゼント当選者は発送をもって代えさせていただきました。

問1：Military Police。憲兵です。

問2：「① 海に入って蓬萊（ほうらい）山に至り、仙人に会った」なんです。

問3：ホント。ラピュタからの帰りに「ザモスキ（詳細は謎）」に上陸し、「エド」で将軍（6代家宣と思われる）にも面会している。1709（宝栄6）年5月27日のことらしい。…と言いたかったのですが、これは出題ミス。「ガリバー旅行記の」というのが抜けていたので、「ガリバー」さんなら誰でもいいことになってしまう。というわけで、これはノーカンとします。

問4：明治時代。旧憲法発布のとき初めて使われた。

問5：真珠の計量単位で、「匁」が使われている。「Monme」…う～ん…

問6：「頭（とう）」で数える。

問7：やはりものとの黑白のシマである。

問8：それ以上になるとタンパク質が凝固して体の細胞が（当然体自体も）死んでしまうから、呂盛があっても意味がない。なお解説が言うには、体温が40℃近くなったら「アソコ（きや〇）」を冷さないと、「不能」になり易いんですって。

問9：気象庁の予報官が、自分の感覚で決める。最近は地震計も使うようだが、それでもメインは予報官の直感。最近震度が控え目なのは、気象庁の建物が鉄筋になって揺れにくくなったから。

問10：「② 駆動軸6本（F）、直流式で最高速度85キロ以上（60番台）、設計5番目（5）の電気機関車（E）の一千番台の1両目」が正しい。

問11：事故で機外に脱出しなければならない時の為に、予め目を慣らしておくため。明るいと、いきなり暗い所へ出た時一瞬よく見えなくなる。

問12：「……」が「SOS」を意味する。これだと初心者でも間違ひ無く打てる。…でも、通信システムが改善（通信衛星利用）されたお陰で、SOSって事实上廃止なんですって。

問13：ホント。大正7年に設置されてから、昭和11年までそうだった。

問14：機体がはじめて動いたとき。その後どんなに地上でウロつこうが、出発が遅れたことにはならない。

問15：副砲の装甲が最も薄い。ここを弾が貫通するとすぐ弾薬庫まで行ってしまう為、急

降下爆撃ならば 250 kg 微甲弾一発で簡単に沈められる。

問16：蛇口からの水流を整えるため。これが無いと水が飛び散る。

問17：昔コンビーフが手詰めだったころの名残。この形が詰め易かった。

問18：エクレア（電光）のように食べないと、中のクリームがとろけ落ちるから。

問19：もともとはヒンズー語の「パンチ」で「5」の意味。5種類の調味料を混ぜたカクテルのことを意味する。

問20：ジョンニケージ作曲「4分33秒」。初めから終りまでの4分33秒間、本当に一音も発しない。1952年、ニューヨークで初演（？）。

＊フォロー。

問1：決してマッハパンチでも、メガトンパンチでもない。…誰や、メンタルポイントなんて言つてるのは！

問6：「四」じゃないのよ。

問8：「マグニチュード（M）」は「震度」とは別で、こっちは精密に機械で調査する。

問11：決して外が見えないからとか、ムードをだすためなどではない。

問15：「大和」も「武藏」も、結果的にはこれで沈んだとされている。

問20：これは知らない方が当たり前。

編 C 後記

菊地：早いもので、今回で遂に「A S」も開始一周年です。これもひとえに皆様のお陰です。本当にありがとうございます。尚、混乱を防ぐため、今後は本ゲームで使用する地名については、なるべく現実のものを使用することにしました。

岬：イラクは狙ってくれるね。フーチャンのやること、大量虐殺がないだけあとヒトラーと同じじやん。暗殺されかかったところまで。しまいにやソ連にバグダットまで踏み込まれて、自殺したりして。…最後に。I'll be Back!（ネタわかった人は手紙下さい）

正宗：思い返してみればロクなことをしていない。イエールの皆、常に迷惑かけ通しで申し訳無かった。今回無事に本土に戻れたのが、せめてもの救いではあるが……。最後にはパアーッといくからな！みんな、頼むぞ！

宇垣：We'll be come back....必ず帰ってくるけんね!!…ところで、このワープロおかしくない？字が切れてるように見えるの私だけ？

※ 今回は、戦争が終つたらキャラクター各自はどうするかを必ず書いておいて下さい。

例：残ってイエール内戦に参加する／故郷に帰る／現地で商売を始める／私兵軍団を組織して更に革命を起こす…等。

・ Addition.

GGに「スロット」の記事があるのは周知のとおりである。そこで最近「トミーが強い、トミーが強い」と取りざたされているようだが、私からみればそんな事は当たり前である。トミーが大手だからではない。その点ではエボックも同じだからだ▼「小物」の経験の差である。トミーは、HOよりもさらに小さいNゲージ（1/150）の鉄道模型をもう10年以上も手がけている、そっちの業界のビッグ3である。残りは関水金属とグリーンマックスの2社だが、ここではそこまでは関係ない。しかし、エボックはこっちは手を出していないのである。確かに最近はHOを始めるようになってきたようだが、そんなものは、Nに比べればはるかに制約が緩い。▼大きさが小さいということは、それに伴いモーターも小さくしなければならないことになる。しかし、重さ 자체はそれにあわせた軽さにはならない。スロットと同じで、鉄道模型では動力車に、マグネットの代わりにダイカストを詰めるからである。これが結構な重量になる。しかも編成になると、トレーラーにも安定性向上のために死重を入れているから、モーターは必然的に軽量小型大馬力の物を必要とするようになるのである▼エボックの場合、そういった制約は経験がないから、モーターの開発一つとってもかなり大変なのである。従って、ノウハウがあるトミーが有利なのは当然なのだ。最近は鉄道模型の方が関水に食い荒らされていることもあるし、ここは一つトミーに頑張ってもらって、スロット業界を牛耳って欲しいものだ。頑張れトミー。

榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 3 Amazon. (Sec. 2)

不意に、宇垣は跳び箱からおりると、セブンスターを携帯灰皿の中にねじ込んだ。

そしてやおら右手を突き出すと、言った。

「得物」

「宇垣先輩…！」生き残りが鼻白む。「何も直々に手を下さなくても、あたしたちで…」

「そうは言っても、たったこんだけの間に、手負いに5人も倒されてるじゃねえか」宇垣の目付きがけわしくなる。「この落とし前はアタイがつける」

「…」

「いいから貸しな」

榛名は黙ってそれを見ていた。自分からけしかけるほどの余力は持ち合わせていなかったのだ。やがて一人がためらいながら木刀を渡すのを見ると、榛名は舌で唇を湿した。これからが本番だ。

宇垣は中段にそれを構えると、榛名と少し距離をおいて正対した。

「てめえらは手を出すんじやねえぞ」

榛名を見据えたままで念を押すと、宇垣は大上段に振りかぶって榛名に襲いかかった。すかさず榛名が両手に木刀を渡して頭上に掲げ、これを受け止める。しばらくその体勢のままでにらみあいが続いた。

「！」

瞬間のスキを突いた榛名が弾き返し、今度は逆に彼女が切りかかった。先程榛名がやったのと同じように宇垣が受け止め、形勢がまるきり逆になる。

殺氣立った手下たちが周りを取り囲む。

「手エ出すなっつったア！」

宇垣が怒声を発する。

その勢いで今度は彼女が弾き返し、両者が正眼に構えてつばをせり合い、にらみ合った。

不意に、榛名が思いきり押し返して大上段に振りかぶった。

「せいっ！」

「…！」

宇垣が刀身を頭上にかかげる。

周りが息を飲んだ。

榛名の木刀は、宇垣の頭上へは行かずに、鮮やかな弧を描いて相手に対応する間も与えず、野球のバットのように鋭く、彼女の脇腹へ食い込んだのである。

「がッ！」

奇声を発した宇垣が飛ばされ、今まで自分が座っていた跳び箱にもろにぶつかって突き崩した。

「宇垣先輩！」

手下がかけ寄って助け起こす。

「やっ、た…」

氣力を使いはした榛名は、そう呟くと氣を失って、うつぶせに倒れた。

「…いい、自分で立てる」

そう言って助けの手を払い、木刀を杖代わりにして立ち上がった宇垣は、しばらく榛名を見下ろし、そして告げた。

「起こしてやれ…全員、そいつもだ」

榛名は言いつけに従って2人がかりで肩をかつぎ起こされた。

「負けたよ」宇垣は届託無い笑顔を榛名に向けた。「迷惑かけた」

「…」

疑惑に満ちた表情で榛名が見返す。

「よし、全員起きたな…こっち集まれ」宇垣は周りを見回しながら言った。「お前ら2人は栗田をささえてる」

「自分で立てるわ」

縦言いながら、榛名が慌てて手を2人の肩から下ろす。

「…じゃお前等もこっちだ」

そして全員が疎漏と、やにわに宇垣は片膝を突いて首をたれた。

「申し訳無い」宇垣は言った。行動に困って、手下が互いの顔を見あわせる。「許せとは言わない。主従の契りを結ばせてくれ…もちろん栗田、あんたが主だ」

あるじ

「あ!?」思わず榛名は声を上げた。事情を察知した手下たちが、次々に宇垣にならって片膝をつく。ますます榛名は戸惑った。

「あの、ねエ…」榛名は頭を搔こうとして、腕の痛みに軽く悲鳴を上げた。「そういうの、ムシが良すぎない…？」

「承知の上だよ」宇垣は榛名を見上げた。「けどこのまま何もしないんじゃ、こっちの気がすまない」

「頭のいい奴は皆嫌いなんでしょう？」

「けんかの強い奴は好きでね」宇垣はニタリと笑った。「アンタは私の上に立つの

にふさわしい気迫の持ち主だ」

「…あなたとこの方面で口論するのは無理そうね」榛名は肩をすくめて深々と溜息をついた。「私が嫌いな人…いたら言って」

誰も反応しない。

「かくて成立」宇垣が言った。

榛名がしゃがみ込み、右手を差し出した。

「とにかく立ってちょうだい。私はそんな、片膝つかれるような立場にないわ」

「そんな…」

「いいから」

ためらいがちに、全員が立ち上がった。

「少しいい？」もちろん、と宇垣がうなずく。「どうせやるのなら、主従じや無くて義姉妹にしてちょうだい。私のことは榛名と呼んで。あと、私と話す時も、他の人と同じように、普通に話してちょうだい」

「合点」宇垣は榛名の手をがっしりと取った。「勿論親分…榛名が姉貴分だろ？」

「それともう一つ」榛名は他の者も見回した。「今後こういう陰の行為は一切やらないで。いい？」

「合点！」全員が唱和する。

「…いいわ」榛名はうなずいた。「それじゃ、そういうことで」

榛名が身をひるがえして戸口に向かった。彼女は重く汚い鉄板の扉に手を伸ばしたが、それよりも速く手下が飛びつき、榛名に戸口を開いた。

「あ…」

榛名の手が目的を失って宙をさまよった。手下が無言で頭を下げる。

「あ、ありがとね」

ぎこちない仕草で、榛名は歩きだした。…大分日が沈んでいる。

「そうだ、いけない！」

彼女は不意に永野のことを思い出すと、びっこをひきながら主港へ走りだした。

「榛名！どこ行くんだい！」宇垣が呼び止める。

「すぐ戻るわ！」榛名は走りながら言い返した。「逃げるんじゃないから！あなたたちは倉庫の整理を！」

「そんな！」

宇垣以下全員が、後を追い出した。

